

三菱デジタルレコーダ“DX-TL6000”

此島和弘* 福田智教**
森田知宏**
野口正雄**

Mitsubishi for Digital Recorder “DX-TL6000”

Kazuhiro Konoshima, Chihiro Morita, Masao Noguchi, Tomonori Fukuta

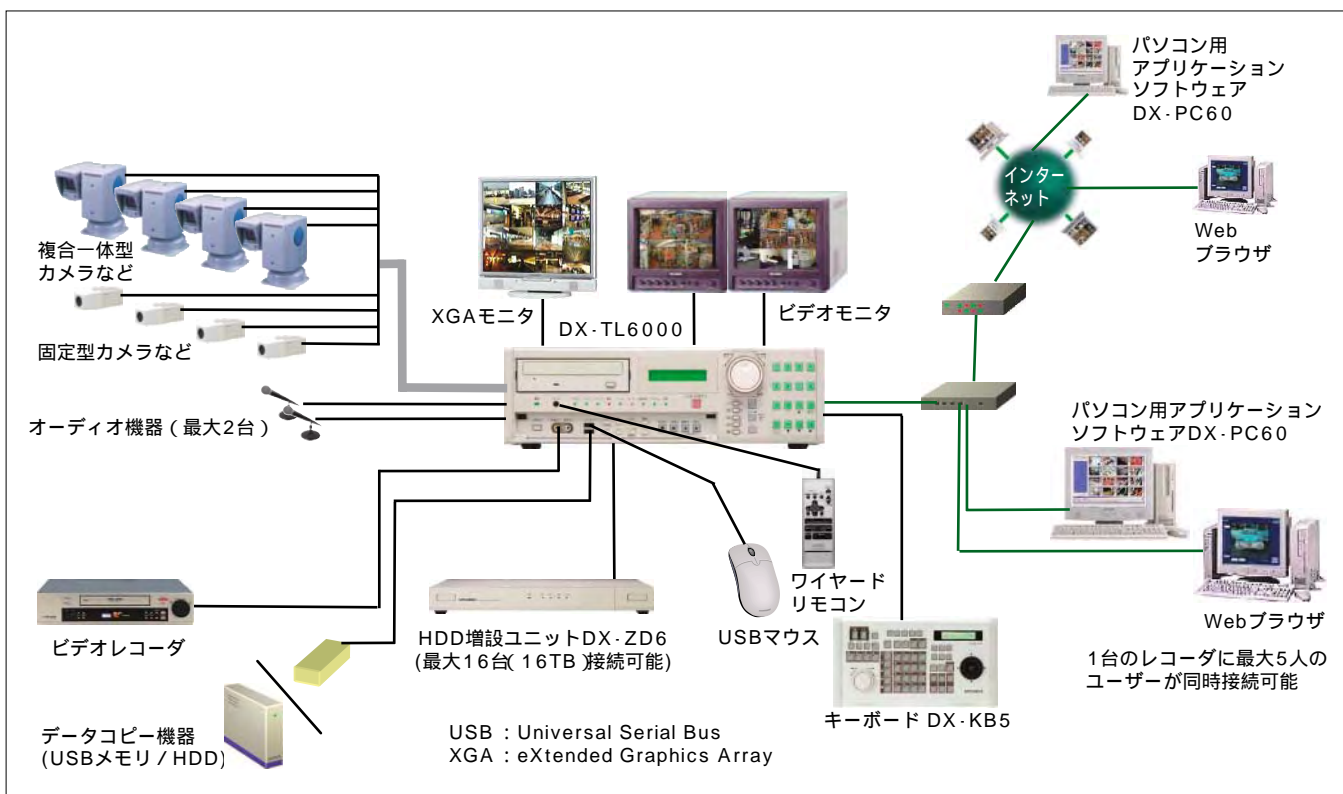
要旨

最近では、個人情報保護法の全面施行によって、金融機関を中心に監視映像の記録データ保存の長期間化や冗長化のための二重化を要望する顧客が増えており、これまで以上に記録効率の向上を図り、記録容量を低減する必要性が高まってきている。一方、コンビニやマンション等では、昨今の治安悪化を受けセキュリティへの関心が高まってきている。このような市場要求に対応するため、三菱電機では、今回監視用デジタルレコーダ“DX-TL6000(以下“TL6000”という。)シリーズ”を開発した。このモデルでは、新画像圧縮エンジンに動画圧縮方式(MPEG(Moving Picture Experts Group)-4)を採用したことで、画像データサイズを従来の約1/2以下の容量(当社比)に低減した。更に、HDD(Hard Disk Drive)容量は増設ユニット“DX-ZD6”を最大16台(16TB)まで接続可能として、年単位の記録保存を必要とする用途に最適な監視システムを構築する

ことを可能とした。

また、コンビニやマンション等では、店長/管理人がシステムを管理しているため、有事の際には、せっかく記録をしても、“画像の検索方法がわからない”記録データの取り出し方が分からないといった問い合わせが多くなってきている。このような市場における諸問題を解決するため、当社は、記録運用の長期間化を図りながらも、検索・コピー作業を含めた操作性を簡易化したデジタルレコーダの新ラインアップTL6000シリーズを開発した。

本稿では、TL6000で導入した、圧縮方式に依存せずに映像データを効率良く処理できるファイルシステム技術、複数の映像信号を処理するマルチチャンネル映像処理技術、及び機種展開に柔軟に対応できる新ソフトウェアアーキテクチャについて述べる。



“DX-TL6000”のシステム構成

TL6000のシステムは、映像信号入力となるカメラ(16入力)、カメラ映像を監視するためのビデオモニター(3出力)、外部から本体を制御する各種制御装置(アプリケーションソフトウェア、キーボード、リモコン、マウス等)等から構成され、TL6000がこのシステムの中核となり、映像監視・映像データ記録・各種メディアへのデータコピー・各種周辺機器制御等の各種機能を実現している。